

## AFC 総会 川淵キャプテン スピーチ原稿

【オープニングビデオ ~ アジア選手がヨーロッパリーグで活躍するハイライトシーン~】

### 挨拶 ~ はじめに

ブラッター FIFA 会長、各大陸連盟会長、ハمام AFC 会長、そして、本日ご参加のアジアの友人の皆様、Japan Football Association の川淵三郎です。本日は、この様な光栄な機会を設けていただき、大変感謝しております。

私は現在、AFC プロリーグ特別委員会のチェアマンをさせていただいております。この委員会は、ハمام会長が、アジア各国のプロリーグを充実させ、AFC チャンピオンズリーグを UEFA チャンピオンズリーグと肩を並べる、アジアで最も人気のある大会として成功させたいという強い思いから発足したものです。そして、私自身、ハمام会長の要望のもと、このプロジェクトを率先して推進し、アジアの一員として、アジアのサッカーに貢献したいという強い気持ちをもって取り組んでいます。

現在ヨーロッパのトップリーグでは、オーストラリア・中国・イラン・日本・韓国・サウジアラビアなど、数多くのアジアの選手が活躍しています。数年前と比較するとアジアのサッカーレベルは向上したと言えます。

しかし、残念ながら、まだアジアのレベルは、世界の中で決して高いとは言えません。2006 年のワールドカップドイツ大会がその良い例です。私たち、アジア勢は、新しく加盟したオーストラリアを除いて、全て予選で敗退しました。現状を打破するためには、まずは代表チームの強化に直結する、各国のクラブの強化を抜本的に行わなければいけません。各協会が充実したプロリーグを如何に日常的に持つことができるか。アジアの強豪クラブが切磋琢磨して争う魅力的な大会が行われるか。そうしたことが重要になり、アジアからワールドカップで優勝できる国を輩出することにつながる訳です。そして、このことこそが、アジアのサッカーの大きな目標です。

### アジアの目指すもの

現在、アジアの経済は、中国を中心に著しい発展をみせています。また、世界の人口 65 億人の約 60%にあたる 39 億人をアジアが占めています。余談ですが、経済界の生産比率 No.1 を誇るアジアですが、残念ながらサッカー界ではトップリーグで活躍する選手を十分生産していませんね・・・。

そうした意味では、つい最近、日本の中村俊輔選手がスコットランドリーグの MVP を取ったことは、アジアのサッカー界にとっては大きな意義があったと思います。

経済成長を続けるアジアにおいて、我々は様々な深刻な問題も抱えています。私たちはどうやって将来を担う子供たちに、夢と希望をもてる社会を提供できるか、真剣に考えなくてはなりません。

ここに本日集まった我々は、将来を担う子供たちに、夢と希望を与えられる“力”を持っています。それはサッカーを愛する“力”です。サッカーは世界中で最も愛されるスポーツです。各国の充実したプロリーグ、そして、その頂点となる AFC チャンピオンズリーグは、正に子供たちの夢の受け皿となることは、間違いのないでしょう。そのためにこそ、このプロジェクトは成功させなければならないのです。

しかし、現状の AFC チャンピオンズリーグはどうでしょう？

現在の AFC チャンピオンズリーグは、UEFA チャンピオンズリーグと比較すると、プロリーグとしての歴史と実績は言うまでもなく、観客動員数・テレビの放映権料・スポンサー・マーチャダイジングなど、人気・財政面も含め、大きな差があります。さらに言えば、アジアには、本当の意味でのプロリーグ・プロクラブというものは、多くは存在していません。

UEFA チャンピオンズリーグでは、総額 6 億 1600 万ドルが参加チームに分配されます。参加チームは、最低でも 480 万ドルが保証され、優勝すれば 2400 万ドル以上の賞金を獲得することが可能です。AFC チャンピオンズリーグでは現在、優勝賞金は 60 万ドル、決勝までいかなかったチームは、むしろ赤字にさえなっている状況です。

観客動員数に目を向けて見ると、非常に寂しい人数です。日本でさえ、ようやく今年は、1 試合平均では言えば、2 万人(21059 人)を越えるようになりましたが、昨年までは、ホームでの観客数は、せいぜい 7000 人(2004 年が 7338 人・2005 年が 7248 人・2006 年が 6573 人)程度です。

テレビの視聴者も、現在の AFC チャンピオンズリーグは、決して多いとは言えません。一方、UEFA チャンピオンズリーグは、深夜の放映にもかかわらず、アジアの一部の地域の昨年の実績では、中国で 1 億 1220 万人・インドネシア 3590 万人・日本 1000 万人・タイ 630 万人・マレーシア 340 万人……。これだけ沢山のアジアの人々が UEFA チャンピオンズリーグに釘付けになっている訳ですから、もしも AFC の大会がより人気のあるものであったら……。アジアには限りない可能性が秘められていると思います。

これらの現状を踏まえた上で、新たな魅力ある AFC チャンピオンズリーグにするためには、思い切った改革が必要です。改革の目的、そして、4 つの基本コンセプトを、まずはお伝えしたいと思います。

まずは、最も根本的な考えですが、AFC チャンピオンズリーグの試合をより面白いもの、人気のあるものにする事です。この大会のブランド価値を高め、ファンとメディアにとってさらに魅力のあるものにします。

第 2 は、アジアの競技力を高めることです。最も強いチームが最上の大会に参加すると同時に、より多くの AFC 加盟協会がこの大会を目指す機会を創出します。そして、皆が切磋琢磨して、実力を向上させます。

第 3 には、参加チームにより良いコンディションを提供することです。チームの移動負担を軽減し、適したスケジュールを設定します。そのために、一定のステージまでは、東西に分かれた地域で試合を行います。

そして、4 番目は、最も重要なことですが、より良い財政状況にすることです。AFC 内で、強固な財政基盤を確保すると同時に、参加チームにとってより魅力的でモチベーションが出る分配金を提供します。

今から僅かの期間で、この 4 つを実現することは、皆様、大変なことだと思っていることでしょう。非常に高いハードルで、無理だと思う方もいるかもしれませんが、我々は力を合わせ、この壮大なプロジェクトを、必ずや実現させなければなりません。

## Jリーグの成功

ここで、是非、皆様に日本サッカーの大改革、Jリーグの誕生と成長について、ご紹介したいと思います。今でこそ、JFAは、アジアのトップ協会として認められていますが、これはJリーグの成功抜きには考えられません。今のJリーグを見られて、信じてもらえるか分かりませんが、驚くなかれ、15年前の日本サッカーがどのような状態だったのか。今とは全く違う状況と環境でした。

本日せっかくの機会なので、具体的に、当時、どのような状況だったのか。どのようなことをしたのか。現在はどうか。まずは、このビデオをご覧くださいと思います。

### 【ビデオ 1993 年前と後 ~ 当時の日本サッカーとJリーグ開幕 ~】

ビデオをご覧になってお分かりだと思いますが、1993年の前と後では、日本のサッカーは大きく変わりました。

これは、当時の日本代表の成績です。本当に弱かった。何度試合しても、いつも惨敗が続きました。当時、世界の檜舞台というとワールドカップとオリンピックでしたが、ワールドカップは「夢のまた夢」。せめてオリンピックに出たいという思いで、日本国内最高のアマチュアリーグ、Japan Soccer Leagueを作ったにもかかわらず、アジアの予選も突破できない。アジアの中でビリのほうだったということです。

1990年イタリアワールドカップの時、日本は招致を表明しましたが、当時は実力も人気もなく、施設も財政力も何もありませんでした。

観客は1試合でせいぜい2000人から3000人位、年間でも30万人から40万人、テレビ放映権収入も、年間で1000万円ももらえれば良いほうで、マーチャンダイジングは、人気がないからほとんどゼロでした。

そこで「日本のサッカーを大胆に改革するには、どうすれば良いか」ということで色々検討を始めました。高いハードルを設けて、もしそのハードルを飛び越えられれば、ひょっとして成功するかもしれない。飛び越えられなければやめよう。落っこちてしまっても元に戻るだけだから、何も失うものはないのだということで、Jリーグへの参加希望クラブにあえて高いハードルを設けました。

第1のハードルは、法人化されたプロクラブを創設すること。

第2は、プロのライセンスを持った指導者とプロ契約の選手が18人以上いること。

第3は、1万5千人収容のナイター照明を持った競技場を確保すること。

第4は、クラブはホームタウンを持つこと。

第5は、小さい子供たちからユースに至るまで育てる下部組織を持つこと。

その他にも数々のハードルを設定しました。

時代の流れも味方しましたが、常識にとらわれず、ハードルは下げるどころか、むしろより高いハードルを次々と設定しました。これが成功の1つの大きな理由だと思います。

結果、それらのハードルを越えることが出来た10のクラブチームの初年度参加が決定、Jリーグは1993年にスタートし、爆発的な人気を集めました。

Jリーグ発足からたった10数年でどう変わったのかと言いますと、2002年ワールドカップ開催のお陰もありますが、当時、ゼロだった1万5千人収容のサッカー専用競技場が、何と今は20箇所以上あるのです。そして

2つだけだった4万人以上収容するスタジアムは、15個になりました。

観客動員数では、30万人程度だったのが、年間約830万人。何と約30倍です。Jリーグの観客動員数は、設立当初から比べると落ち込んだ時期もありましたが、現在では、着実に伸びています。

年間約1000万円だったテレビ放映権料は、Jリーグで年間約50億円。ゼロだったマーチャンダイジングが、驚くなかれ、初年度は300億円の売上げになりました。

10だった参加クラブは、現在1部18、2部13で、合計31クラブ。そして、今では50以上のクラブがJリーグへの参加を目標としています。

これだけJリーグが成功した理由として、1つあげられることは、リーグがCentral Marketingを行い、イニシアチブを取ったことが挙げられます。例えばヨーロッパのクラブでは、92年マドックが放映権を買った頃からTVの放映権料が高騰していますが、1990年当時は、入場料・TV放映権・スポンサー・マーチャンダイジングの4つが大きな収入源でした。日本ではマーチャンダイジングを始め、収入は全てが微々たるものでした。各クラブ個別の努力による収入を足したとしても、バラツキもあり、大きなものにはなりません。そこでリーグが統一して全体のブランド価値を高め、まとめて規模を大きくし、クラブに分配することで、収入を拡大し、安定させました。

そしてリーグは、経営の透明性と健全性を重視しました。選手の年棒も、身の丈にあった健全経営を念頭に設定しています。Jリーグもここまできているとあって、選手年棒高騰からチーム運営ができなくなったクラブがありましたし、合併問題も起こりました。それを何度も乗り越えてきた結果、ほとんどのクラブが単年度黒字となり赤字体質を脱却できました。

さらに、当時は国際的に活躍できる選手など、日本から現れることはないと思っていましたが、今では常時10人以上の選手が海外で、しかもヨーロッパのトップレベルのリーグで活躍するようになりました。

これだけ日本で成功してきたプロリーグ。きっと皆様の国や地域でも共通することが沢山あると思います。そして、何よりも、AFCチャンピオンズリーグの改革にもオーバーラップすると思います。

あんなに弱かった日本。Jリーグにできたことは、各国・アジアでも必ず実現できるはずです。

私は、日本におけるプロリーグの成功の経験を、広くアジアのサッカーの発展に活かしたいと思っています。

## **AFCプロリーグ特別委員会の役割**

さて、具体的なアジアサッカーへの貢献。そのためにAFC内で設立された組織、AFCプロリーグ特別委員会では、どういう方向に進めて行こうとしているのかについて話しをさせていただこうと思います。

世界最高峰の大会として、4年に1度行われるFIFAワールドカップと、毎年行われるUEFAチャンピオンズリーグがあります。ヨーロッパだけではなく、南米でも北中米でもアフリカでも、アジアより数段素晴らしいリーグが展開され、その大陸連盟のクラブチャンピオンが真の世界一を決めるFIFAクラブワールドカップもできました。

そのような素晴らしい大会に活躍できる完全なプロクラブ同士の戦いに持っていくことがAFC特別委員会の役割なのです。

この AFC プロリーグプロジェクトで実施したいことは、大きく言って二つあります。

一つ目は、プロリーグがまだ存在しない協会には創設できるよう促進させ、既にプロリーグがあるところにはさらなるレベルアップにつながるよう支援すること。

そして二つ目は、先ほど言いましたとおり、アジアクラブ大会における最高峰、AFC チャンピオンズリーグを改革させ、2009 年には、競技的、商業的に、より魅力のある大会にすることです。

そのための準備として、既に特別委員会のインスペクションチームが各協会を回り始めています。インスペクションでは、各国の様々な状況を垣間見ることができます。まだ、4 ヶ国しか終了していませんが、例えば、先般訪れた UAE では、驚く程近代的なスタジアム・斬新なユース育成制度・プロリーグ設立のための特別委員会の編成、そして何よりも、協会の方の熱い想いを感じることができました。今年の 11 月までには、対象となる協会を全て訪問する予定です。こうして集められた情報をもとに、各協会の出場枠や大会フォーマット・レギュレーションが作成され、2009 年から AFC チャンピオンズリーグが生まれ変わります。

既に、プロリーグ/クラブの定義に加え、2009 年の AFC チャンピオンズリーグの参加基準や 2012 年までのプロリーグの目標を提示しました。

そして、こちらが新たな大会フォーマットです。

今私が目標としているものは、アジアで最も強いクラブが参加すると同時に、全ての国や地域にチャンスがあるフォーマットです。実力があり、魅力的なクラブが数多く出場し、優勝を争う。また、同時に、どんなに弱い国やクラブでも、出場するチャンスがあり、そして、AFC チャンピオンズリーグで優勝すれば、FIFA クラブワールドに出場できる。つまり、世界のトップにつながる仕組みを作るのが今回の大きなポイントだと思っています。

各国のプロリーグが成功する為に、AFC チャンピオンズリーグが引っ張り上げる力になると思います。一国を代表するクラブだけでなく、アジア、そして、世界を代表するクラブになれます。クラブ・選手・サポーターの夢も世界とつながっています。

2009 年から新たに改革された AFC チャンピオンズリーグは、人気もあり、実力もあり、最強チームが最高の状態で出場し、高額な賞金も獲得できる。魅力溢れる、世界に引けを取らないアジア最高峰の大会でなければなりません。

そのためには、J リーグの時がそうだったように、高いハードルを設ける必要があるでしょう。大変な改革になりますが、決して妥協は許されません。もしかしたら、最初に参加できる協会はそれ程多くないかもしれません。しかし、真剣に取り組む協会、夢を大きく持っている協会は、必ず将来参加できる。そのために、AFC プロリーグ特別委員会は可能な限りの支援をする。私は何者にも負けない固い決意でこのプロジェクトを実行します。そのことが、私たち委員会に与えられた使命であり、私に出来るアジアに対する恩返しだと思っています。

そして、本日参加された各協会の代表各位が強い熱意とリーダーシップと決意をもって、精一杯変革をもたらすことを心から願っています。

## アジアンドリーム

### 【ビデオ ~UEFA チャンピオンズリーグと ACL の名場面~】

最後になりますが、私たちの目指すところは、決して実現不可能ではありません。私は可能だと信じています。今この時を逃せば、アジアのサッカーの発展はありません。世界のサッカーに追いつき、追い越すためにも、今こそ皆で力を合わせて立ち上がりましょう。

大きな夢を持ち、たゆまない努力を続け前進していけば、必ずやその夢は実現します。

これで、私のプレゼンテーション“The Future of Professional Football in Asia”を終わりとさせていただきます。最後になりましたが、皆様のご静聴に感謝致します。